

【様式】

令和6年度 学校マネジメントシート

学校名(三重県立松阪商業高等学校)

1 目指す姿

(1)目指す学校の姿	生徒・教職員が「誇り」をもち、保護者・地域から「信頼」される学校
(2) 育みたい資質・能力 (育みたい生徒の姿) 【グラデュエーション・ポリシー】	*次の「6つの力」を身につけ、自己指導能力（そのとき、その場で、どのような行動が適切であるか、自分で判断し、決定して実行する能力）を持った生徒 「気づく力」「自分で考える力」「行動する力」「質問する力」 「表現して伝える力」「ねばり強く取り組む力」
	*起業家マインドを持ち、課題に気づき、解決に向けて自ら考え、自発的に働きかける行動力を有し、卒業後の次のステージでも活躍する生徒
ありたい教職員の姿	*生徒が主体的・対話的に学ぶ授業を目指して改善を進め、進路希望実現のための学力保障を請け負うことができる教職員 *同僚性を構築し、生徒に寄り添ったきめ細かい指導がチームでできる教職員

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<p><生徒> *安全安心に過ごせる充実した学校生活と進路希望の実現を望んでいる。</p> <p><保護者> *生徒が安全安心な学校生活を送るとともに、進路希望の実現を期待している。</p> <p><地域> *生徒の公共心とマナーが育成され、専門学科としての専門性や特色を生かして地域の活性化に貢献してほしいと期待している。</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	<p><家庭> *安全安心な教育環境と心身共に健康な生徒の育成 *進路希望を実現するための支援 *学校教育活動等の迅速な情報提供</p> <p><中学校> *学力面、生徒指導面での中高の連携 *外国人につながるりのある生徒の指導のための一層の連携</p> <p><地域社会> *関係機関、事業所との連携・協力の推進 *商業の知識・技術とともに、課題解決能力等を持つ生徒の育成 *学校教育活動等の情報発信</p>	<p><家庭> *学校の教育方針に対する理解と協力、家庭での基本的な生活習慣の教育</p> <p><中学校> *基礎学力の向上、継続的な指導のための個々の生徒の情報共有</p> <p><地域社会> *本校の専門性や特色を理解したうえでの生徒の活躍の場の提供</p>
(3) 前年度の学校関係者評価など	<p>*資格取得や検定の合格実績を維持しながら、探究活動と両立させる。</p> <p>*外国につながるりのある生徒が活躍する場を広げ、国際ビジネス科の特色化につなげる。</p> <p>*地元への就職率の高さを維持しつつ、ミスマッチを起こさない進路指導に取り組んでいく。</p> <p>*成人年齢の引き下げに伴い、消費者教育など必要な教育を充実させる。</p> <p style="text-align: right;">以上に期待する。</p>	

(4)現状と課題	教育活動	<ul style="list-style-type: none"> *三菱みらい育成財団の助成も活用した「三重丸モデル」や「ビジネス探究プログラム」をもとに、生徒の主体的な学びに向け授業改善に取り組んでいる。これらを継続し、定着、深化させる必要がある。 *単位制の利点を生かし少人数や習熟度講座で学習者へのきめ細かな指導を行っている。個別最適な学びを進めるため、基礎力診断テストや学習動画の活用等の一層の工夫が必要である。 *海外語学研修や台湾の姉妹校など国際的な教育資源を持つ。特に国際ビジネス科の学びの充実と特色化に向け、これらの活用を進める必要がある。 *商業教育の拠点校として、高い専門性を有した教職員が配置され、スペシャリストを育成するノウハウを備えている。特に改編された情報システム科を引き継ぐ指導の工夫を行う必要がある。採択されたDXハイスクールも活用していく。 *いじめの防止及び早期発見に努め、生徒が望ましい人権意識をもち、安全安心な学校生活を送ることができるように取り組む必要がある。
	学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> *伝統ある地域の商業高校として、地元産業界等と強いネットワークで結ばれている。この資源を活かし、地域連携や地域交流を一層充実させ、社会に開かれた教育を実現させるとともに、ミスマッチを起こさない進路指導につなげていく必要がある。 *中学生や地域へ本校の魅力をつたえるため、日々の教育活動や特色ある取組、スペシャリスト育成や部活動の成果などを積極的に発信していく必要がある。 *情報系に長けた教職員が多数おり、生徒の学びや教職員の業務効率化に向け、ICTや生成AIを活用するための研究を進める必要がある。

3 中長期的な重点目標

教育活動 【カリキュラム・ポリシー】	<ul style="list-style-type: none"> *すべての生徒・教職員が安全安心で尊重され、自己肯定感を高められる教育活動を進める。 *すべての教育活動において、つけたい6つの力や「自己指導能力」の向上を、教職員が意識し、生徒にも意識させるよう工夫して取り組む。 *3年間の系統だった探究学習を通じて、問いを立てて課題を設定し、解決する能力や態度を育むとともに、生徒自身の進路実現を目指すキャリア観を養う。 *高度な資格取得を目標とすることで、知識・技術の定着を目指し、進路実現にも活かす。 *全体の教育活動および生徒個々の学習の両面の改善に、「学びの基礎診断」や授業アンケート、外部人材からの助言・評価、非認知能力の変容を測るAiGROW等を積極的に活用する。 *グローバル教育推進のため、台湾の姉妹校を軸にオンラインを利用した国際交流や海外研修を含む生徒および教職員の交流を充実させる。また、希望する生徒の海外進学の実現を目指す。
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> *外部関係機関との連携による教育活動を推進し、生徒が校外で学ぶ場を創出していく。 *生徒の活躍の様子を、様々な方法で広く発信することに努める。 *「学校信頼向上委員会」を中心に、不祥事根絶に向け「信頼される学校であるための行動計画（松阪商業高校）」に基づいた取り組みを推進する。 *学校安全衛生委員会において働き方改革の推進を図り、過重労働時間の削減を進める。

4 求める生徒像

入学時に期待される生徒の姿 【アドミッション・ポリシー】	<ul style="list-style-type: none"> *規範意識や基本的な生活習慣が身についている生徒 *学習活動、部活動、資格取得等に積極的に取り組める生徒 *商業科目、および国際ビジネス科においては英語を学ぶ意欲を持つ生徒
---------------------------------	--

5 本年度の行動計画と評価

(1)教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
規律ある行動の徹底 (総務)	【活動指標】 ・ 儀式、集会を通して集団の一員としての自覚を深めさせ、迅速な整列・行動を周知徹底させる。	・ 迅速な整列・行動の周知徹底が図れた。点呼、開始を設定された校時通りに執り行った。	
防災訓練の実施 (総務)	【活動指標】 ・ 防災訓練を年1回以上実施し、集団行動の重要性を認識させ、危機管理や防災についての意識の高揚を図る。	・ 12月23日に、緊急地震速報に基づいた避難訓練を実施した。 防災ノートの活用・安否確認フォームの配信テストを実施し、実運用に向けての準備ができた。	
保護者アンケートの実施 (総務)	【活動指標】 ・ 保護者対象アンケートを実施し、分析・考察を行い、本校教育活動に活かす。 【成果指標】 ・ 1月にアンケートを実施し、アンケート結果を全職員に共有して教育活動の改善に生かす。	・ 1月に実施予定である。結果については、3月の職員会議にて検討を行う	※
家庭学習習慣の定着 (教務)	学習時間調査の実施 【目標】 家庭学習の大切さを意識づけ学習習慣の定着を図る。 【取組内容】 1学期・2学期それぞれで面談週間を設ける。面談を通して生徒自身が生活時間を振り返ることで、学習時間の確保につなげられるようにする。 【活動指標】 担任による、年間2回以上の個別面談の実施率100%。 【成果指標】 家庭学習時間が1日あたり1時間以上の生徒の割合を、70%以上にする。	・ 今年度も面談週間を設置し、100%の実施が達成できた。 ・ 1日当たりの家庭学習時間が1時間以上となる生徒の割合は、6月実施時30.8%(昨年度35.5%)、10月実施時25.1%(昨年度26.5%)であった。	
授業アンケートの実施 (教務)	授業アンケートの実施 【目標】 生徒に「授業アンケート」を実施して、授業のさらなる改善に活用する。 【活動指標】 授業アンケート実施率100%を目標とする。 【成果指標】 「授業の理解度」の肯定意見を80%以上、「質問ができる雰囲気」の肯定意見を80%以上にする。	・ 授業アンケートの実施率は92.5%であった。(昨年度76.6%) ・ 授業の理解度は97.3%の肯定的意見であった。(昨年度は99.2%) 質問ができる雰囲気は97.3%であった。(昨年度97.2%)	
国際教育 (研究・人権)	(1) 外国につながる生徒と日本の生徒が、相互に学び合える学習環境を構築する 【活動指標】 ① 外国につながる生徒が、日本語による授業を理解し、「主体的・対話的で深い学び」を実現できるように、言語的学	【活動指標】 ①授業等で、配付物へのルビふりや易しい表現をするように依頼し、実践している。	

	<p>習支援を行う。</p> <p>② 国語科、商業科において取り出し授業を実施する。</p> <p>③放課後等の日本語学習を実施する。</p> <p>(2) 国際理解教育や国際的な職業への関心を喚起する教育を展開する</p> <p>① 台湾 新北市立三重高級商工職業高校との交流を促進するため、国際ビジネス科生徒とのオンライン交流会を定期的に複数回実施する。</p> <p>② 海外研修を実施する。</p> <p>【成果指標】</p> <p>①、②生徒の海外事情への興味・関心を高める。</p>	<p>②取り出し授業を実施し、また日本語指導が必要となる生徒向けの選択講座を開講した。</p> <p>③生徒の学習深度に応じた学習を行っている。</p> <p>(2)①オンライン交流を3回実施した。また台湾の学生来校時には2年4組生徒を中心に交流。おかげ横丁を散策するなどした。</p> <p>②海外研修実施、台湾姉妹校訪問に13名参加</p>	<p>※</p>
<p>探究的な学習の推進(研究)</p>	<p>(1) 学校全体で探究学習を推進する。 「三重丸モデル」を構築する (三菱みらい育成財団カテゴリー1事業)</p> <p>【活動指標】</p> <p>① 外部助言者(大学教員、企業関係者等)を招聘し、中間発表会(校内ポスターセッション)と成果発表会(校外文化会館)を実施する。</p> <p>② 3年次 課題研究において「生徒立案型」の探究学習を定着させる。</p> <p>③ 学習効果測定のため、AiGROWを実施する。</p> <p>④ 「三重丸モデル」が今後自走できるプログラムとして本校に定着できるよう検討する。</p> <p>【成果指標】</p> <p>② 外部のビジネスプランコンテスト等に参加し、外部からの評価を受ける。</p> <p>③ 学習効果を分析し、全職員で共有する。</p> <p>④ 方向性を示し、全職員で共有する。</p> <p>(2) ビジネス探究プログラムを構築する</p> <p>【活動指標】</p> <p>① 県内独立商業4校が各校で作成した、ビジネス基礎探究プログラムを実施する。</p> <p>② 2年次マーケティング・ビジネスコミュニケーションでビジネスプランを立案する探究学習を実施する。</p> <p>③ 3年次課題研究において、生徒主体で研究できるよう三菱みらい育成財団事業、文科省DXハイスクール事業を活用する。</p> <p>【成果指標】</p> <p>①、②、③アンケートを実施し、学習効果を分析する。</p>	<p>(1)①3年生全員に発表の機会が得られるよう、12月9日(月)に校内発表会を追加して実施した</p> <p>②今年度は40種類の研究テーマを設定し、(株)リクルート高校生Ringアワードをはじめ、複数のビジネスプランコンテストに応募した。</p> <p>③学期毎に実施したが、どの学年も探究に関わるコンピテンシーの上昇がみられた。</p> <p>④三重大大学との連携を進めた。</p> <p>(2)①計画通り実施できた。</p> <p>②2月20日(木)三重大大学在学学生をファシリテーターに迎えて実施予定。</p> <p>③ドローンを活用したマルチメディア授業などに取り組むことができた。</p> <p>①～③の成果指標を分析するため、三菱みらい育成財団「高校魅力化アンケート」を実施した。回答率95.1%。ほとんどの項目で昨年度より肯定的な数値の上昇がみられた。</p>	<p>◎</p>
<p>ICT教育(研究)</p>	<p>文科省DXハイスクール事業を推進する</p> <p>【活動指標】</p> <p>① ICTを活用した文理横断的・探究的な学びを強化するために必要な学習環境を整備する。</p> <p>② 教務部、商業科と連携し、単位制を活用して3年間系統立てて情報を学習する教育課程を整備する。</p> <p>③ ②の実現のために、外部教育機関等と連携する。</p>	<p>①Webデザイン室の更新を2月に実施予定である。</p> <p>②1年次情報処理の授業で取り出し授業を実施し、DXに係る学校設定科目新設に向けて取組を開始した。</p> <p>③SEによるドローン実習、HP制作の授業を実施した。3学期より三重大大学地域創造センターとの連携授業を</p>	<p>※</p>

<p>生徒指導 (生徒指導)</p>	<p>頭髪服装指導を月に1回実施し、また登下校指導や校外指導の実施により、松商生として誇れる「見た目」やマナーの向上を自発的に行うことができるような意識付けを図る。</p> <p>【活動指標】 日常的にしっかりとした制服の着こなしや校則を守ることで、また社会的なマナーを身につけられる生徒を増やすため、講話や通信等を活用した啓発に力を入れる。</p>	<p>開始した。</p> <p>頭髪服装指導は年8回実施した。校則を守る生徒がほとんどだが、守れない生徒に対しては個別で指導を行った。生指講話や長期休み前の通信等で校則を守り、社会的なマナーを身につけられるよう啓発を行った。</p>	
<p>キャリア教育 (進路指導)</p>	<p>【活動指標】 進路実現を目指すキャリア観を養うとともに、進路保障するための学力を身に付けさせる。</p> <p>① 外部講師等を活用した進路ガイダンスや進路講話を各学年各学期に1回程度実施する。</p> <p>② 1、2年生は頭髪服装指導の待機時間を利用して「進路ノート」を活用し、キャリア・パスポートを毎月1回程度継続的に行う。</p> <p>③ 1、2年生は基礎学力の定着や向上のため、「実力診断テスト」を年2回行う。</p> <p>【成果指標】 ① 進路ガイダンスを通して、生徒が進路先を決定できるよう体系的に実施する。</p> <p>② 「進路ノート」に書き込んだ内容を生徒と担任が共有し、個人面談や三者懇談会等で活用する。</p> <p>③ 1、2年生は「実力診断テスト」の結果を業者と連携をして分析し、蓄積されたデータについて個人面談等を通して進路指導に役立てる。また教科とも情報を共有して授業力向上につなげる。さらに、業者による進路講演会を年1回程度開催する。</p>	<p>①各学年とも計画通りに実施できた。</p> <p>②学年主任主導で計画的に実施した。2年次の末日に進路ノートは生徒に返却する。</p> <p>③計画通り実施した各学年とも12月末にベネッセの担当者から分析結果のプレゼンを行い、学習意欲の向上に努めることができた。</p>	
<p>保健指導の充実 (保健)</p>	<p>【活動指標】 ① 健康について適切に管理できる資質や能力を育む。</p> <p>② 疾病・感染症の予防に取り組む。</p> <p>③ 「性に関する教育」について、生徒対象講演会を各学年年1回実施する。</p> <p>④ スクールカウンセラーによるカウンセリングを年37回実施する。</p> <p>⑤ 高校生活スペシャルマネージャーによるカウンセリングを年12回実施する。</p>	<p>①保健委員会による保健だよりを発行し、保健関連(感染症予防等)の情報発信をすることができた。文化祭では「ポジティブ思考を手に入れよう」をテーマとして心を健康に保つためには、どうすればいいか考える機会をつくられた。</p> <p>②学校で起こりうる熱中症や感染症等について保健だより等を通して生徒に情報提供を行い、疾病や感染症が発症するリスクを抑える行動をとることの大切さを伝えた。</p> <p>③性に関する教育の講演会を各学年1回ずつ実施し、「生命の尊重」、「人格の尊重」、「人権の尊重」などについて理解を深めることができた。</p> <p>④スクールカウンセラーによるカウンセリングを必要とする生徒全員が受けることができた。</p> <p>⑤高校生活スペシャルマネージャーによるカウンセリングを必要とする生徒全員が受けることができた。</p>	

<p>人権教育の推進 (人権教育推進)</p>	<p>人権教育推進計画に基づき、HR 活動や教科学習、講演会などをとおして人権尊重の精神を培い、周囲にある課題に気づき人権意識を持って自立した行動のできる生徒を育成する。</p> <p>【活動指標】 人権 LHR 活動や人権講演を実施し、生徒の気づきや行動へのきっかけとする。「人権室だより」の発行(年間5 回程度)等により、学びのフィードバックの機会を設け、人権意識の定着を図る。</p>	<p>【活動指標】 各学年とも計画的に LHR 活動、人権講演会を実施した。「人権室だより」は現在3 回発行済み。</p>	
<p>図書館利用教育 (図書)</p>	<p>① 学校図書館の利用の意義を理解し、またマナーの習得等、生涯教育の場となる公共図書館等の利用につながるような基礎的知識の習得を目指す。</p> <p>② クラス生徒への働きかけのきっかけとなるように、図書委員会活動を活性化させ、親しみやすい学校図書館を目指す。</p> <p>【活動指標】 ① マナー指導や図書委員会による「図書館通信」の発行、ショーウインドウ展示等を行う。</p> <p>【成果指標】 ① 図書館利用にあたってのマナー指導(随時)を行う。 ② 図書委員会による「図書館通信」を発行(年5 回程度)する。</p>	<p>① 図書館利用の意義・マナーは、1 学年に対し、図書館オリエンテーションを実施。</p> <p>② 図書委員会活動は、カウンター当番、「図書館通信」の発行、ショーウインドウ展示、校内ビブリオバトル、文化祭企画などを実施。</p>	
<p>生徒会活動の充実 (生徒会)</p>	<p>① コロナ禍を経た社会・生徒たちの状況に対応しながら、生徒主体で生徒会行事・企画を運営していく。</p> <p>② クラブ活動の活性化に取り組む。</p> <p>【活動指標】 ① 生徒が主体となって各行事(体育祭・文化祭・クラスマッチ・壮行会等)を企画・運営し、すべての生徒が充実した活動や経験ができ、自主自律の精神と仲間とのつながりを培う場・機会を創出する。</p> <p>② 生徒会冊子「松籟」で活動報告成績等の紹介を行う。</p>	<p>① 生徒会執行部を中心に生徒会活動・生徒会行事を進めることができた。</p> <p>② 各クラブの活発な活動・活躍に対して壮行会の実施、野球部夏の県大会の応援を吹奏楽部と有志の生徒たちで盛り上げたことなどにより、部活動の活性化につなげた。</p> <p>【活動指標】 ① 生徒会執行部を中心に生徒が主体となって対面式、体育祭、文化祭、クラスマッチを企画・運営し、盛会で終わることができた。</p> <p>② 『松籟 61 号』を発行し、今年度の生徒会活動やクラブの活動実績等を形にまとめて生徒に還元できた。</p> <p>【成果指標】 ① 生徒会行事・生徒会に関わる要望に関するアンケートや意見集約を適宜行ない、生徒の意見の反映につなげた。</p>	
<p>キャリア教育 (商業科共通)</p>	<p>(1) 探究学習モデル『三重丸モデル』で掲げるアントレプレナーシップを実現するため、企業、外部一般団体、専門学校との連携を深めた商業教育を展開する</p> <p>【活動指標】 ① 1 年次 ビジネス基礎において、SBP (Social Business Project) 活動に関わる講演会とワークショップを実施する。</p> <p>② 1 年次 情報処理または3 年次課題研究において、産業DX に関わる講演会またはワークショップを実施する。</p>	<p>スシロー、VISON、商工会議所、松阪市商店街組合、その他県内の事業所のご協力を得て学習活動を行うことができた。また、大原簿記専門学校と高専連携授業を展開した。マーケティングでは三重大学の協力を得て、大学生による探究課題の設定を行った。</p> <p>① クエスチョンX を使った探究の学びの導入</p> <p>② 3 年次課題研究では、外部講</p>	

<p>教育課程・学習指導 (商業科共通)</p>	<p>③ VISON 多気株式会社が中心になって取り組んでいるデジタル田園都市国家構想に課題研究の授業で取り組む。</p> <p>④ 2年次マーケティング、ビジネスコミュニケーションにおいて、ビジネスプランコンテストに参加する。</p> <p>⑤ 3年次 課題研究の授業展開を抜本的に見直し、「教師提案型」から「生徒企画型」へ転換・実践する。外部助言者を招聘し、課題研究中間発表会と課題研究成果発表会を実施する。</p> <p>⑥ DX ハイスクールの授業実践に向け、環境整備や学校設定科目の準備をしつつ、情報処理や課題研究等の授業で学習を導入していく。</p> <p>【成果指標】</p> <p>①、② 1、3年次で3回以上実施する。</p> <p>(2) 商業科のすべての年次で「探究学習」を実施する</p> <p>【活動指標】</p> <p>① 1年次 ビジネス基礎において、ビジネス探究プログラムを実施する。</p> <p>② 2年次 マーケティング・ビジネスコミュニケーションにおいて、リクルート社：高校生 Ring ビジネスプランコンテストに応募する。</p> <p>③ 3年次：課題研究において、課題研究発表会を2回実施する。</p> <p>【成果指標】</p> <p>① 実施できたかを成果指標とする。</p> <p>② 2年次すべてのクラスにおいて、高校生 Ring ビジネスプランコンテストに応募する。</p> <p>③ 課題研究発表会に外部助言者を招聘し、講評を受ける。</p> <p>③ 課題研究発表会は、1回以上校外で実施する。</p> <p>(1) 学習した知識を生かすため外部教育力を導入するなど生徒のスキルアップに努める</p> <p>【活動指標】</p> <p>① 高専連携授業（本校と大原簿記医療情報専門学校津校）を活用した授業を推進する。</p> <p>② 外部講師を活用した授業を推進する。</p> <p>【成果指標】</p> <p>① 高専連携授業を、商業2科目以上、3回以上実施する。</p> <p>② 外部講師による授業を商業2科目以上実施する。</p> <p>③ 外部講師による講義を学年または商業系クラブ活動で取り入れ、年3回以上行う。また、起業やビジネスに係る講演会・ワークショップを年1回以上行う。</p> <p>(2) ビジネスに関する基礎的、基本的な知識と技術の定着をはかり、幅広い科目で上位級合格を目指す</p> <p>【活動指標】</p> <p>① 全商検定合格者数の増加を目指すだけでなく、公的・民間主催の検定の受験を積極的に行う。</p> <p>② 1年次 簿記、情報処理の基本的な知識と技術の定着をはかる。</p> <p>【成果指標】</p>	<p>師の先生による実習、講義</p> <p>③文化祭での美村パイの導入</p> <p>④高校生RINGに参加</p> <p>⑤7月に中間発表会、12月に校内発表会、1月に成果発表会を実施した。</p> <p>⑥WEB教室の教室の更新や実習機材の購入</p> <p>10回実施した</p> <p>(2)実施できた</p> <p>①実施した</p> <p>②実施した</p> <p>③3回実施した</p> <p>①三重の探究プログラムに沿った授業実践と改善</p> <p>②全生徒が作成、応募した</p> <p>③5名の外部助言者を招聘し、3名の助言者から講評を受けた。ほとんどの講座が校外学習を実施した。</p> <p>(1)上記で記載した多くの外部教育力を導入することができた</p> <p>①実践した</p> <p>②実践した</p> <p>①簿記、財務会計Ⅰ・Ⅱで実施した</p> <p>②ネットワーク活用や課題研究など多くの授業で実施した</p> <p>③実施した</p> <p>(2)基本情報処理技術者試験や日商簿記検定2級など</p> <p>①3種目以上の1級合格者数が24人から18名と減ったが、8種目合格や6種目合格する生徒が出た。昨年は5種目が最高である。</p> <p>②検定の合格率を見る限り、定着率は高いと考える</p>
------------------------------	---	--

<p>教育課程・学習指導 (国際ビジネス科)</p>	<p>① 商業系の各種検定試験の合格者について、昨年度の学年比を上回ることを目指す。 ② 1年次に受験予定の全商検定合格率70%以上を目指す。</p> <p>(3) Chromebook やプロジェクタなど ICT 機器を活用した授業を推進する ① 授業に係わるアプリケーションを活用する。</p> <p>【成果指標】 ① 1、2年次の商業科必修科目において、Chromebook を活用した授業を実施する。</p> <p>1年次の基礎基本の指導を大切にし、ビジネスに関する基礎的、基本的な知識と技術の定着をはかる。商業に係る全商検定だけでなく、「GTEC」検定高スコアや実用英語技能検定準2級以上の取得を目指す。また、1年次ではビジネス基礎、2年次ではビジネスコミュニケーションを中心に探究学習を展開し、全教科と連携しながら来年度に実施される課題研究につなげていく。</p> <p>【活動指標】 生徒の興味・関心を持たせることを目指した授業を展開するために、Chromebook やプロジェクタなど ICT 機器を活用した授業を推進する。また、商業の資格と英語の資格を取得することで来年度の進路選択に活用する。</p> <p>【成果指標】 ① 1、2年次に展開するすべての商業科目において、Chromebook または Google classroom を活用した授業を展開する。 ② 1、2年次商業科目において、Chromebook など生徒一人1台端末で活用できるデジタルコンテンツを研究し、近い将来に活用できるよう努める。 ③ 外国人生徒に対応するための教材にルビを付けるなど、ユニバーサルデザインの授業作りの考えに基づいた授業作りに努める。 ④ 1年次に受験予定の全商・商業系検定の合格率80%以上を目指し、2年次では上位の商業系検定の合格率50%以上を目指す。 ⑤ AiGROW の指標として測定をする16項目のコンピテンシー指標を見る。 ⑥ 姉妹校提携している「台湾 新北市立三重高級商工職業学校」とのオンラインによる交流を実践する。</p>	<p>①上記に記載 ②簿記は当日受験をした生徒全員が合格できた。 情報処理 72.5% 珠算電卓検定 91.7% (3)ほとんどの授業で活用できた</p> <p>①ほとんどの授業で活用できた</p> <p>全商英検1級合格者8名</p> <p>上記に記載</p> <p>①実施できた ②実施できた ③実施できた ④【1年生】 簿記は当日受験をした生徒全員が合格できた。100% 情報処理 72.5% 珠算電卓検定 91.7% ビジネス文書 86.1% 【2年生】 情報処理 50.6% 簿記 52.3% ビジネス文書 62.6% 商業経済 64.6% ⑤年3回実施した ⑥オンライン交流を3回実施した。また台湾生徒来校時には2年4組の生徒とおかけ横丁散策 台湾姉妹校訪問13名</p>
--------------------------------	--	--

改善課題

【図書部】これまでの取り組みは、今後も必要であるので継続して取り組みたい。内容については、その都度検討しながら、より有効な内容を考えて進めていく。

【商業科】昨年度まで必受験であった一部の検定を、自由受験に変更したことにより合格率は上がったが、進路選択に影響が出ないように検討する必要がある。

課題研究の授業展開が変わり過度期にあるため、来年度以降に課題の改善が必要である。

【国際ビジネス科】国際ビジネス科の特色化として、海外修学旅行をどうしていくか検討課題である。

【生徒指導部】現在実施している頭髪服装指導のあり方について、検討していく必要がある。

【生徒会(クラブ活動)】クラブ活動の実態を把握し、クラブの存廃について検討していく必要がある。

(2)学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
校務連携 (総務)	<p>【活動指標】</p> <p>① 分掌、教科、事務と連携を図り、日常的な情報共有、共通認識の形成を通じて、円滑な教育活動の推進に努める。</p> <p>② PTA 本部役員と生徒会役員による意見交流を通じて、教員、保護者、生徒の連携を進める。</p> <p>③ 朝の打ち合わせ、年間行事計画の調整による情報共有。</p> <p>④ 「VIVA 松商」の実施、成果の検討。</p>	<p>①～③について、計画通り実施した。④について、VIVA 松商で上がった、荒天時のジャージ登校について各分掌で検討し、認められる成果があった。</p>	
学校教育活動 の情報発信 (総務)	<p>【活動指標】</p> <p>① 学校関係者（保護者・中学生・地域等）に対して、本校の教育活動、部活動、進路等について情報を提供する。</p> <p>② モバイル端末配信システムによる平常時および緊急時の情報提供に活用する。</p> <p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校生活入門講座（オープンスクール）、授業公開を充実させる。 ・中学生用進路説明資料、学校紹介パンフレットをわかりやすいものに改善する。 ・学校 web の更新を積極的に行い、広報活動の充実を図る。 <p>④ 生徒、保護者、教職員のきずなネット登録を啓発し、適切な情報提供を行う。</p>	<p>①～④について、計画通り実施した。</p> <p>授業公開について、10月12日(土)実施については、中学校関係者が100名を超える参加者があった。学校 web の Index ページをリニューアルし、動的なページに改編した。</p>	◎
授業改善の 取組 (教務)	<p>授業ノウハウの共有</p> <p>【目標】 教員が授業の工夫や授業改善を公開、その工夫や改善方法を共有する。</p> <p>【取組内容】</p> <p>① 年度当初に授業改善設定シートを作成してデータを共有する。</p> <p>② 年度末に、生徒対象の授業アンケートの結果も活用して成果をまとめ、次年度の自身の授業改善につなげる。またその成果を全体で共有する。</p> <p>【成果指標】 授業改善に関する取組みや研究を行った教員の割合が90%以上</p>	<p>「一人一台端末を活用した授業改善（ICTを活用した授業改善を含む）」の取組みや研究を行った教員の割合・・・88.3%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全学年が生徒一人一台端末を持っている状況となり、各教科で様々な取り組みが行われている。 ・全県立学校で導入された採点支援ソフト「百問繚乱」を利用している教員が増えている。ソフトの改善も行われており、採点時間の短縮が図られている。 	
国際教育 (研究)	<p>国際理解教育や国際的な職業への関心を喚起する教育を展開する。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際交流委員会を複数回実施する。 	<p>台湾姉妹校交流の他、台湾留学サポートセンターによる台湾留学説明会、1、2年生を対象にした台湾留学に関わる講演会を実施した。</p>	※
探究的な 学習の推進 (研究)	<p>(1) 「三重丸モデル」を円滑に運営するため、教科横断型の学習の推進と各教科間の調整を図る</p> <p>【活動指標】</p> <p>① 他教科の関連性を明らかにする。</p>	<p>(1)について、研究委員会を実施し、本校職員に課題研究の授業見学の時間を設定</p>	◎

	<p>② 研究委員会を複数回実施する。 【成果指標】 ① 研究委員会で検討し、検討内容を全職員で共有する。</p> <p>(2) 産・官・学との連携を推進する 【活動指標】 ① VISON 多気株式会社との連携とデジタル田園都市国家構想事業への参加。 ② ベンチャー教育を推進する団体との連携。 ③ 松阪市、松阪商工会議所、三重県デジタル社会推進局等との連携。 ④ 皇學館大学、高崎商科大学、名古屋商科大学などとの連携。</p> <p>(1) 文科省 DX ハイスクール事業を推進する 【活動指標】 ・ 既存の高専連携協定（大原簿記情報医療専門学校津校）だけでなく、大学、企業 SE に広げて、DX ハイスクール事業への協力体制を構築する。</p> <p>(2) AiGROW を用いて生徒の変容を分析し、「三重丸モデル」の検証と改善を行う 【活動指標】 ・ 学習効果測定のため、AiGROW を複数回実施する。 【成果指標】 ・ 学習効果を分析し、全職員で共有する。</p> <p>(3) 校内 NW の円滑な運用と情報共有を推進する 【活動指標】 ① クラウドサービスやアプリケーションを活用した情報共有の推進、会議のペーパーレス化など、校務 DX 化を推進し、校務の効率化を図る。 ② BYOD や SNS の取り扱いなど、情報セキュリティや個人情報情報の取扱いについて注意喚起する。 ③ 生成 AI を校務の DX 化を関係づけられるか検討する。 【成果指標】 ③ 検証結果を全職員で共有する。</p>	<p>したが、教科横断型の探究学習にはなっていない。引き続き改善が必要である</p> <p>①～④について、計画どおり実施できた。④について、名古屋商科大学との連携はできていないものの、新たに三重大学との連携を進めている。</p> <p>(1)について、3年生の授業で企業 SE、三重大学教員による授業を実施した。協力体制について、次年度も引き続き連携した取組を進めることになった。 (2)測定については、計画どおり実施した。</p> <p>(3) ① Microsoft Teams や Google Workspace を活用した。 ②職員会議を通して注意喚起するとともに、コンプライアンス研修でも実施した。 ③現職教育を複数回実施し、検討した。</p>	
<p>ICT教育 (研究)</p>	<p>国際教育、探究的な学習、ICT 教育に関わる現職教育を推進する 【活動指標】 ① 一人1台端末に関わる研修。 ② 外国につながる生徒の指導に関する研修。 ③ 学力測定に関わる研修。 ④ DX、AI、オープンデータの取扱いに関する研修。 ⑤ 探究学習の指導に関わる研修。 ⑥ 個人情報の取扱いに関わる研修。</p>	<p>研究部主催の現職教育について、1月末までに11回実施した。活動指標①～⑥について、すべて網羅した。職員の参加率は①～⑥を平均すると25名程度（約50%）の参加であった。</p>	
<p>現職教育の 推進 (研究)</p>	<p>① 生徒指導におけるチームワーク力を向上させる。 ② 特別指導、頭髪服装、交通マナー、特別アルバイトなどの指導における情報共有を行い、共通認識を持って生</p>	<p>職員会議や打ち合わせの場、学年居室等において日頃の生徒の様子などを情報</p>	
<p>組織としての 生徒指導 (生徒指導)</p>			

<p>進路指導を教職員全体で取り組む体制づくり(進路指導)</p>	<p>徒に対応する。</p> <p>【活動指標】</p> <p>①② 課題を有する生徒に対する共通認識を多くの教職員が持ち、組織力の向上を図るために、生徒指導部、学年団、各分掌との情報共有を図る。</p> <p>【活動指標】</p> <p>就職希望者、進学希望者ともに大半の生徒が面接試験を受けるため、学校全体で面接指導に取り組む体制を整える。</p> <p>① 3年生全員に入退室を重視した集団面接指導を行う。</p> <p>② 就職希望者に対して個人面接指導を行う。</p> <p>③ 進学希望者に対して個人面接指導を行う。</p> <p>【成果指標】</p> <p>面接評価シートを利用して、面接指導教員と生徒、担任が面接練習内容の情報を共有する。</p> <p>①～③について、年1回以上実施する。</p>	<p>共有した。</p> <p>職員間で生徒指導にかかる共通認識が持てるよう積極的に職員居室を訪問し、生徒の気になる点などを話し合った。</p> <p>9月上旬に就職希望者、10月上旬に進学希望者を対象に、全職員による面接指導を実施した。</p> <p>学校全体として進路指導に対する協力体制が出来上がっている。</p> <p>さらに、総合実践という商業科の授業の中で、科目担当者より面接練習や履歴書の書き方など、きめ細かく丁寧に指導している。</p>	
<p>保健部の活動(保健)</p>	<p>【活動指標】</p> <p>① 生徒の気持ちに寄り添い、望ましい学校生活が送れるように支援する。</p> <p>② 保健に関する情報提供と健康増進のための情報を発信する。</p> <p>③ 健康診断と救急処置及び日常的な保健指導を行う。</p> <p>④ 特別支援の必要な生徒の情報共有と支援活動を行う。</p> <p>⑤ 心身の健康教育と、教育相談による心のケアの充実を図る。</p> <p>⑥ 校内の環境美化活動とごみの分別を徹底する。</p>	<p>①心身の不調や悩みをかかえている生徒が多く、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーへつなげることができた。</p> <p>②自己の体調管理の大切さを伝えるため、保健(主に感染症予防)関連の情報の発信を行った。</p> <p>③日常の健康管理と負傷後の対処について理解を促すことができた。</p> <p>④特別な支援を必要とした生徒に対し、現状に合わせた支援・情報の共有と提供を行い、外部機関や関係分掌と常に連携をとり、支援活動を継続することができた。</p> <p>⑤スクールカウンセラーによる現職教育講演会を実施し、教育相談への理解を深めることができた。</p> <p>⑥各学年、各分掌と協働し、毎日の清掃活動等で校内の環境美化とごみの分別を行うことができた。</p>	
<p>人権教育研修(人権教育推進)</p>	<p>教職員の人権意識を高めるため、校内研修を実施するとともに、校外研修についても参加を促進する。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権教育推進計画に基づいた校内職員研修(年間3回程度)の企画 ・校外研修の案内および参加の奨励 	<p>【活動指標】</p> <p>外国にルーツのある生徒にかかる研修、障がいを持つ生徒に係る研修、部落差別問題にかかる研修を実施した。</p>	
<p>学校図書館の情報提供</p>	<p>各教科との連携を密にし、「主体的・対話的で深い学び」の実現につながる、教育支援の充実に努める。</p>	<p>教科担当者の相談に応じて、図書館資料を活用した教育支援を随時行った。</p>	

(図書)	<p>【活動指標】 図書館利用につながる案内とサービス（資料提供、レファレンスサービス）を行う。</p> <p>【成果指標】 必要に応じた案内とサービス（随時）を行う。</p>	<p>資料を購入したり、県立図書館や他校図書館から借受したりして、利用者のニーズに応えた。</p>
地域連携 (商業科)	<p>地域に開かれた商業高校を目指し、地域社会やビジネス社会の現状や要望を反映させた商業教育を展開する</p> <p>【活動指標】 ① マーケティング分野の授業、課題研究において、校外学習を実施する。 ② 近隣の小学校を対象にプログラミング教室を実施する。</p> <p>【成果指標】 ① 2科目以上実施する。 ② 課題研究において、1回以上実施する。</p>	<p>①実施した</p> <p>②小学校との調整で実施できず</p> <p>①多数の課題研究講座で実施できた。</p>
教員研修 (商業科)	<p>商業に係わる研修に参加し、教育活動に還元する</p> <p>【活動指標】 ① 三重県高等学校商業教育研究大会、東海地区高等学校商業教育研究大会に参加し、教育活動に還元する。 ② ビジネス探究に係わる商業科教員対象の校内研修を実施する。 ③ VISON 多気株式会社関係者、QC サークル研修、大学教員による研修会に参加し、授業に還元する。</p> <p>【成果指標】 ・①～③は、年間2回以上、①・②について、商業科教員の半数以上の参加を目指す。</p>	<p>①県商研・生徒商研・東海商研などに参加した。また探究やDXなどの研修会を行った。</p> <p>実施できた</p>
組織運営 (国際ビジネス科)	<p>国際ビジネス科は、英語を中心とした一般教科と商業の双方を中心に学習する学科であることから、「英語の4技能5領域」の育成を目指した授業を展開しつつ、地域社会やグローバル社会で活躍できる人材の育成を目指す。</p> <p>【活動指標】 ① 商業科目においてはすべてティームティーチングを実施する。 ② 国際ビジネス科の運営を円滑に行うため国際ビジネス科委員会で学科の特色化を進める。</p>	<p>①実施できている</p> <p>②台湾交流などの実績をあげることができた</p>
働きやすい職場環境づくり (管理職)	<p>【活動指標】 ① 学校行事や既存の取組を、必要性を十分検討しながら積極的に実施していく。 ② 定時退校日に退校できた職員の割合を90%以上にする。 ③ 部活動休養日を週1日設定し、休養日取得率を100%にする。 ④ 放課後に開催する会議のうち60分以内に終了する会議の割合を80%以上にする。 ⑤ 年360時間を超える時間外労働者数を0人にする。 ⑥ 月45時間を超える時間外労働者数を0人にする。 ⑦ 一人当たりの年間休暇取得日数を10日以上にする。</p>	<p>いずれの数値も12月末現在</p> <p>②○ 93.0% (昨年比+3.5)</p> <p>③○ 100% (昨年比+9.6)</p> <p>④× 60.9% (昨年比+5.3)</p> <p>⑤× 13人 (昨年比 -5人)</p> <p>⑥× のべ63人 (昨年比 -17人)</p> <p>⑦○ 15.2日 (昨年14.7日)</p> <p>⑧○ 22.3時間 (昨年比 -3.5時間)</p>

不祥事根絶 (管理職)	⑧ 一人当たりの月平均時間外労働を 30 時間以内にする。 【活動指標】 ① 学校信頼向上委員会を中心に、コンプライアンスミーティングを実施し事例に学ぶ。 ② 職員会議ごとに時機に応じた注意喚起を行う。	①コンプライアンスミーティングを実施。 ②実施	
改善課題			
<p>【図書部】「主体的・対話的で深い学び」のためにも、図書館利用による学習は有効である。特に情報の質やデータの信頼性は高い。もっと探究活動や授業で利用してもらえるように働きかけたい。</p> <p>【管理職】働きやすい職場環境づくりについて、いずれも昨年に比較して数値はよくなっている。しかし、とりわけ時間外労働に関する数値は依然として低いままであり、引き続き課題である。また、不祥事根絶に関しては、学校信頼向上委員会のコンプライアンス研修会をはじめ、職員のコンプライアンス向上に向けて何度も研修を行い、場合によっては時宜に応じて注意喚起も実施している。</p>			

6 学校関係者評価

明らかにした改善課題と次への取組方向	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導に関して、授業アンケートで扱う改善シート等を毎年継続して実施しており、評価する割合も良くなって成果に繋がっているため、継続して取り組んでいくことが望まれる。 ・生徒指導に関し、社会の実情にすべてを合わせる必要もないが、校則や許可制のアルバイト等について、社会の変化に対応して変えていく必要があるのかを検討していくことが望ましい。 ・普通科では体験できないような取組を評価したい。DX、生成AI、ドローン、3Dプリンターなどは、家庭や塾ではなかなか触れる機会はなく、体験することで非常に大きな成果につながっていくと考えられるため、推進していくことが望ましい。
--------------------	---

7 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・探究活動を進める中で、生徒が主体的に資格取得に取り組むことで、探究活動と資格取得の両立を目指す。 ・今年度取り組んだ「ビジネス探究プログラム」や「三重丸モデル」の継続・定着・深化をいっそう進め、次年度は一つの区切りとして完成させる。また、その後に自走できるしくみを作り上げる。 ・地元への就職率の高さを維持しつつ、引き続きミスマッチを起こさない進路指導に取り組んでいく。 ・外国につながるのある生徒が活躍する場を広げるとともに、今年度台湾の姉妹校との交流を深めたことをいかし、さらに国際交流を活発にして国際ビジネス科の特色化につなげる。 ・国際教養科や情報システム科の遺産を引継いで、引き続きDXハイスクール事業を推進する。
学校運営についての改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き働きやすい職場環境づくりを進めていく。特に風通しの良い雰囲気づくりや、会議の内容を精選して効率化を推進していく。